

令和7年雲南市議会9月定例会

市長施政方針（概要）

令和7年雲南市議会9月定例会の開会にあたり、市政における私の基本的な考え方を申し上げたいと存じます。

はじめに、大雨対応についてであります。

8月10日から11日にかけて、松江市や出雲市を中心に大雨となり、本市においても、10日13時39分、三刀屋川坂山橋水位観測所で避難判断水位を超えたことから、三刀屋町一宮地区の一部に警戒レベル3、高齢者等避難を発令しました。避難所運営に迅速な対応をいただきました地域自主組織の皆様には、厚く御礼を申し上げます。

このたびの大雨で、非住家床下浸水1件、市道15路線、農地5箇所、農業用施設3箇所などに被害が発生しています。市民の皆様へ、ご不便をお掛けしますが、早期の復旧に取り組みますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

次に、物価高騰対応の取り組みについてであります。

物価高騰等の影響を受ける市内事業者や生活者の支援を行うため、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、新たに、職場環境の改善及び雇用の維持を図る就業環境等物価高騰対応支援事業を実施します。また、年度当初から実施している消費喚起活動、生産性向上、販売開拓等を支援する中小事業者等物価高騰対応支援事業補助金の予算を増額します。

加えて、学校給食についても食材費の高騰が影響していることから、食材の質と量を維持するため、当該交付金を活用した給食費の支援を実施します。

さらには、農産物の輸送コストの増大に対し、農協共販青果物輸送費高騰対策支援事業として、青果物を県内外へ出荷する農業者に対する支援を実施します。

物価高騰により減退する消費喚起策として取り組んでいる宿泊・観光消費喚起物価高騰支援事業については、「天然温泉三刀屋の湯ドリーミーインEXPRESS出雲の國 雲南」を新たに対象施設とし、今後の利用拡大が見込まれることから、プレミアム付うなん観光券の追加発行を行い、販売期間も令和8年1月4日まで延長します。

次に、第3次雲南市総合計画に掲げる「えすこに暮らす」、「えすこに育む」、「えすこに創る」の3つの柱に沿って申し述べます。

1. 「えすこに暮らす」に関わる政策

（1）市政懇談会について

市政懇談会を6月30日から8月7日にかけて各町6会場で開催しました。テーマを「誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて」とし、192名の皆様から様々なご意見やご質問をいただき意見交換を行いました。参加いただいた多くの市民の皆様へ感謝を申し上げます。いただいた貴重なご意見やご提言は、今後の市政運営に活かして参ります。

(2) 国勢調査の実施について

10月1日を基準日として5年ごとに行われる国勢調査は、国の最も重要な統計調査として、日本に住んでいる全ての人や世帯を対象に全国一斉に実施されます。この調査結果は、国や地方公共団体で行う様々な行政分野の基礎資料として活用されるほか、研究・教育・経済活動などの幅広い分野で活用され、国民生活にも役立てられています。

調査にあたっては、多言語への対応を進めるとともにオンライン回答を推奨していますので、市民の皆様には、調査にご協力いただきますようお願いいたします。

(3) JR木次線の利用促進に向けた取り組みについて

木次線の新たな魅力を広く知ってもらうため、「一両列車の聖地 木次線」というキャッチフレーズを掲げ、7月5日に木次駅で記念イベントを開催しました。当日は島根県知事をお迎えし、記念切符の配布やロゴマークの披露を行い、多くの皆様にご来場いただきました。また、同日の午後からは、元小学館の漫画編集者である江上 英樹さんが制作されたスイッチバックのジオラマの譲渡式を行いました。このジオラマは、木次線の出雲坂根駅から三井野原駅間にある三段式スイッチバックを精巧に再現したもので木次線利活用推進協議会に寄贈いただき、道の駅「奥出雲おろちループ」に常設展示しています。

加えて、観光列車「あめつち」においても、地元ガイドの皆様や沿線地域の方々の温かいおもてなしに支えられ、団体利用が少ない時期にもかかわらず、4月から7月までの平均乗車率は約6割と、順調な利用状況となりました。今後は誘客事業との連携により、団体利用の増加が見込まれており、沿線の周遊観光の活性化にもつなげます。

さらに、今年で5年目となる「元気いっぱい！木次線まつり」を、来る10月12日と12月14日に予定しています。鉄道の日である10月12日には、きすき駅前賑わい市、鉄道フェスタ、きすきマルシェ、木次まちなかプロジェクトと連携し、「みんな集まれ！木次駅フェス」と題して木次駅周辺を盛り上げます。また、木次線全線開通記念日である12月14日には、江上 英樹さんらにより、出雲坂根駅を舞台の中心として、木次線沿線の魅力を伝える漫画プロジェクト「木次線応援コミックス」の完成お披露目イベントを開催し、映画「銀河鉄道999」^{スリーナイン}の上映も併せて予定しています。

このほか、沿線の風景や観光地の魅力が盛り込まれた「木次線カレンダー」を、本市と奥出雲町の観光協会が共同制作し、9月下旬より販売を開始する予定としています。

8月6日には、JR西日本から昨年度の平均通過人員が発表され、一昨年度と比較して大幅に減少する結果となりました。要因としては、トロッコ列車「奥出雲おろち号」の運行終了の影響によるものと推測しています。区間の数字のみをもって議論すべきものとは考えていませんが、今後も危機感を持って、沿線自治体が木次線利活用協議会を中心に力を合わせ、引き続き木次線の利用促進に取り組めます。

(4) 母子健康推進ネットワーク懇話会の開催について

来る11月7日に「母子健康推進ネットワーク懇話会」を市役所で開催します。母子健康分野の活動団体の代表者や、全国的に高い評価を得ている専門家を迎え、よりよい健康支援のための情報共有や具体的な取り組みについての意見交換を行い、働く世代や子育て世代の健康・体力づくりを効果的に進めるための体制強化に努める考えです。

2. 「えすこに育む」に関わる政策

(1) 令和7年度全国高等学校総合体育大会レスリング競技について

令和7年度全国高等学校総合体育大会レスリング競技を、去る7月27日から30日にかけて、三刀屋文化体育館アスパルで開催し、この間に選手、監督コーチ、観戦者を含め1万人を超える多くの皆様が会場に訪れ、大会を盛り上げていただきました。

大会運営には、競技役員に加え、地域の高校生を含むボランティアにもご協力いただき、遠方からの来場者にも、「随所に地元の気遣い、心遣いが垣間見られる大変温かい大会であった」との評価をいただきました。この大会が関係の皆様のご協力により無事に開催できたことを厚く御礼申し上げますとともに、この経験を本市のスポーツ振興や予定されている島根かみあり国スポ・全スポ にいまるさんまる 2030に活かします。

(2) 「雲南市二十歳の集い」について

去る8月14日に、三刀屋文化体育館アスパルで、「雲南市二十歳の集い」を開催しました。当日は、263名の参加があり、代表して、木次町の飯塚 いいづか 敦也 あつやさんが、アンパンマンマーチになぞらえ「何のために生まれて、どう生きるのか、何をしたいのか、これまで以上に真剣に考えていく必要がある」と誓いを述べられ、力強い決意に深く感銘しました。

二十歳を迎えた方々には、社会を創る主人公として、ふるさと雲南市の誇りを胸に、ご活躍されることを期待します。

(3) ローカルリーダーズミーティングの開催について

地域の若手起業家の育成を目的として全国の自治体や企業で構成される全国ネットワーク組織「ローカルベンチャー協議会」が主催するローカルリーダーズミーティングが来る10月7日から9日にかけて、本市を会場に開催されます。全国から官民協働で産業創出に取り組む自治体や中間支援組織、地方創生に関心を持つ企業など、約150名が参加し、本市の実践事例を学ぶフィールドワークなどを通じて参加者同士で対話と共創によるまちづくりについて議論を深めます。今後も、全国の様々な人や企業とつながり、関係人口を増やししながら、地域や社会を変革するソーシャルチャレンジの取り組みを進めます。

3. 「えすこに創る」に関わる政策

(1) 中山間地域等直接支払制度の状況について

今年度から新たに始まる第6期中山間地域等直接支払制度について、取り組みを実施される集落より協定書及び対象農用地の一覧を提出していただきました。この集計の結果、第6期の申請集落協定数は141件、対象農用地は約1,466ヘクタールとなり、前期までの実績より集落協定数が9件減少し、対象農用地も約136ヘクタール少なくなる見込みとなっています。高齢化に伴うリーダー不足や事務処理の負担などが要因として考えられ、中山間地域の農業を将来的に持続可能なものとするためには、リーダーの育成や事務処理の外部委託化、近隣協定集落との合併による広域化等の対策を進める必要があります。当面は、早急に対象農用地の精査を行い、協定書の認定に向けて取り組みますが、今

後の地域計画の見直しの議論の中で、集落協定についても議論を進める考えです。

(2) 日本遺産の認定更新について

安来市、奥出雲町と連携して取り組む日本遺産「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」については、平成28年度の認定から2回目の更新に向け、本年から6年間の計画を提出し、文化庁の審査を受けていましたが、この度、7月31日付けで、認定継続が決定しました。引き続き、構成する市町と官民が一体となって、認知度の向上と受入体制の整備を進め、周遊観光や宿泊者の増加に向けて取り組みます。

(3) 次期一般廃棄物処理施設の検討状況について

次期一般廃棄物処理施設整備については、先の市議会で計画を再考することをお伝えしましたが、今議会では、在り方の再検討に係る調査費用を補正予算として計上しています。施設の分散整備やごみ処理業務委託の可能性などについて、詳細の調査を行いながら引き続き鋭意検討に努め、雲南圏域にとって喫緊の課題であるとの認識のもと、最適な仕組みを一刻も早く整えていく考えであります。

(4) 脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて

再生可能エネルギーの推進については、4月に市内で設立された株式会社うんなん共創エネルギーへ、発行株式の5パーセントとなる50万円を出資し、公共施設の電気契約を順次切替えているところです。環境省の地域レジリエンス事業補助金について、株式会社うんなん共創エネルギーと共同提案を行い、採択を受けましたので、今年度中に市内13か所の公共施設に太陽光発電と蓄電池を整備します。

また、回収した廃食油を市内で高純度バイオディーゼル燃料に転換するため、カナツ技建工業株式会社と企業チャレンジ連携協定を締結しました。今後、事業者において製造装置の導入等が進められ、今年度中に事業を開始される予定です。引き続き、廃食油回収の拡大に向けて、市民の皆様のご協力をお願いします。

(5) コウノトリを市の鳥に指定することについて

市内におけるコウノトリの営巣が9年連続となり、3か所の巣塔から過去最多の8羽が巣立つなど、コウノトリが本市に定着していると判断できる状況です。また、市内での営巣が来年で10周年を迎えることから、コウノトリを「市の鳥」に指定するための準備を進めたいと考えており、来年3月の市議会定例会に議案を上程できるよう取り組みます。

4. 行政経営

(1) 財政状況について

令和6年度普通会計の歳出決算額は、316億5千7百万円余、前年度比1.7パーセントの減少となりました。これは、令和3年7月豪雨に伴う災害復旧費をはじめ、定額減税調整臨時給付金や物価高騰対応重点支援臨時給付金などの物価高騰対策により歳出が増加する一方で、令和5年度まで実施していたF T T H整備事業完了による歳出減により、おおむね前年度並みの決算規模となったものです。

また、令和6年度には5億円の繰り上げ償還を実施しましたが、そのための基金の取り崩し額を除く収支不足額として、財政調整基金及び減債基金の取り崩し額を4億円まで圧縮し、さらに決算において4億円の黒字を出したことで、収支バランスを維持することができたものと考えております。

これまでの財政健全化の取り組みにより、単年度の実質公債費比率は10.2と大幅に抑えることができ、3年平均で11.1パーセントと対前年度比0.1ポイント減となるとともに、将来負担比率は88.1パーセントと4ポイント下げることができました。

しかしながら、一定の公共事業を確保する中で、人件費や扶助費といった義務的経費の増加などを考慮すると、今後一層の行財政改革を推進しなければならない状況は変わっていないものとも認識しており、引き続き、公共施設等総合管理計画の改訂や行財政改革を通じて、健全財政の維持に努めます。

(2) 令和7年度9月補正予算について

一般会計に係る主なものは次のとおりです。

- 今年度被災した農地・農業用施設に対応するため災害復旧事業 4千3百万円
- 道路維持補修事業 3千5百万円
- 有害鳥獣捕獲奨励事業 2千2百万円余
- 国民スポーツ大会関連事業 1千9百万円余
- 各種公共施設小規模修繕事業 2千万円
- 各種事業補助金等返還金 7千9百万円余

9月議会定例会に議案として、条例3件、一般事件7件、認定事項7件、諮問事項4件、報告事項8件を提出しています。